

「最短突破 ディープラーニング G 検定 (ジェネラリスト) 問題集」正誤表 第2版 第3刷

書籍の内容に誤りのあったことを、本書をお買いあげいただいた読者の皆様および関係者の方々に謹んでお詫びいたします。

(2024年8月19日更新分)

p.327 下から3行目

誤	選択肢1のseq2seqは第5章のRNNのモデルの1つです。p. 263の解説を参照してください。選択肢2のpix2pixも
正	選択肢2のseq2seqは第5章のRNNのモデルの1つです。p. 263の解説を参照してください。選択肢1のpix2pixも

(2024年2月2日までの公開分)

p.46 問7 上から2行目

誤	2045年には人間が自分自身よりも賢い人工知能を作り出すことにより、
正	2045年には 人工知能 が自分自身よりも賢い人工知能を作り出すことにより、

p.68 「シンギュラリティ」の解説 上から1行目

誤	2045年には人間が自分自身よりも賢い人工知能を作り出すことにより
正	2045年には 人工知能 が自分自身よりも賢い人工知能を作り出すことにより

p.102 問4の解説 上から4行目

誤	賭け事などにおいて、勝てば掛け金が $p/(1-p)$ 倍になるような数値のこともオッズということがありますが、実は両者は同じものです(手数料などが取られない場合)。
正	賭け事では「賭け金に対する払戻金の倍率」をオッズと呼ぶことがあります、ここで扱っているオッズの定義とは異なりますので注意してください。

p.125 上から4行目

誤	偽陽性率を上げても真陽性率が下がりにくくなるためです。
正	偽陽性率を 下げるために閾値を大きくしても 、真陽性率が下がりにくくなるためです。

p.288 上から6行目

誤	2020年に登場したRasNetStは高い精度を
正	2020年に登場した ResNeSt は高い精度を

p.332 問 6 解説文の上から 4 行目

誤	として定義される逆頻度 (Inverse Document Frequency : IDF) の頭文字に由来します。
正	として定義される逆 文書 頻度 (Inverse Document Frequency : IDF) の頭文字に由来します。

以上

技術評論社 書籍編集部